

■ はじめに

優良家庭犬普及協会は、一般の社会に受け入れられる「マナーの良い飼い主」と、「動物福祉に基づいたトレーニングのなされた犬」のペア、いわゆる優良家庭犬®をもっと日本に普及させたい、という想いを元に、設立された。

これまで、優良家庭犬®を認定するために「グッドシチズンテスト」を50回以上日本各地で開催し、1000組以上が合格をし、各地域で活躍をしている。

一方、この10年のうちに犬を含む動物に対する、日本人の考え方は大きく変化し、動物福祉に対する意識もどんどん高まっており、犬は「家族の一員」という表現が当たり前となってきている。

また、ペット同伴で訪れることのできる場所や、一緒に住むことのできる住宅も増え、飼われる犬の種類も「中小型犬」がその主流になり、「しつけ」「マナー」についても、時代の変化に合わせて求められるポイントが少しずつ変わってきていることを肌で感じている。

そこで、優良家庭犬普及協会では、従来の「グッドシチズンテスト」の目的を活かしたまま、もっと気軽に受験ができ、楽しんでマナーとしつけ技術の向上を目指すことができる「マナーハンドラーテスト」を開催する運びとなった。

この試験を通じて、さらに多くの飼い主さんが、愛犬への愛情を高め、一緒にハードルをクリアーすることを通じ、さらに「絆」を深めてもらうことを願ってやまない。

■ 試験の目的

犬が苦手・あるいは嫌いな人を含む社会一般にとって、好ましく受け入れられる最低限のレベルのしつけが犬になされており、飼い主もその犬種の特性や個性を十分に理解したコントロールができていることを社会に示す。

また常にマナーを身に付けた優良な飼い主を、広く一般的に増やすことを、この試験(=チャレンジ)の目的としている。

■検定会場および準備

- 屋内、外いずれも可。通常の騒音等可（駅・駐車場等）。
- 必要人員 判定員 1 名、受付や判定の補助 3 名
- 備品 お散歩時の刺激となる道具 3 種
ロングリード 2 本。（一本は小型犬用細いもの）
協会指定チェック表・クリップボード・ストップウォッチ（時計）
イス・（脚拭き用のタオル）

■受験者へのお知らせ

- 一項目でも失格になった犬は、最後まで検定場で見学している事はできます。しかし検定はその段階で終わり、やり直したり、他の項目を受けることはできません。
- 検定会場内で失格となるような不適切と思われる行動を目撃された場合、判定員はその場で犬とハンドラーに通告し、試験の終了を告げます。
- 検定会場内とは「判定員」の目の届く範囲全てです。

■失格項目

以下のような反応が確認された場合、**判定員が判断し不合格となれば**試験が終了します。

飼い主の指示でも止まらない吠えや、不適切な行動

犬に対しての攻撃性（うなり声も不可）

人に対しての攻撃性（うなり声も不可）

不適切な場所での排泄

会場内のいかなる場所であっても、オフリードは認められません。

会場で犬に体罰を与えることは認められません。

いかなる場所でも、人やモノ、他犬に対する**危険を及ぼすような複数回の飛びつき**
ハンドラーが犬の行動を全く制御できない状況になっている

《付記 失格要件については、判定員がその都度程度や危険性から判断します》

■使用する犬具について

- ジェントルリーダー、イージーウォークハーネスの着用可。
- フードおもちゃ等使用禁止
- スパイク・カラー不可。
- チョーク・チェーン不可。
- その他ジャッジが認められないと判断した犬具は使えません。（必要に応じて貸し出します）

■犬及び飼い主の条件等

- あらかじめ申込時に、畜犬登録証及び予防接種の証明を**申告**する。
- ビニール袋等を常に携帯していること。

■検定内容

1. ビニール袋の提示

ハンドラーは、判定員に「ビニール袋」を見えやすく提示する。
犬の姿勢は問わないが、落ち着いて飼い主のそばにいること。

判定

- 用意はできたか聞く
- ビニール袋の提示を求める
- 犬の様子も同時に見る

失格とは

- ハンドラーがビニール袋を持っていない
- 犬がコントロールできない状態である

2. 他人と挨拶を交わし、他人に触れさせる

ハンドラーは、第三者と簡単な挨拶を交わし、犬に触れてもらう準備をする。
犬への触れ方や、触られると嫌がる場所などをキチンと相手に伝える。

ハンドラーは犬の横に立っていても座っていても良い。

犬は嫌悪、攻撃性、恐怖、制止できぬほどの喜び及び興奮を見せてはいけない。
犬は第三者からの挨拶を友好的に受け止められることを示し、触られている間は立っていても、座っていても、お腹を見せても、第三者に近づいて触られても良い。(ただし、ハンドラーはその犬の行動をキチンと管理できていることが条件。)

判定

- 判定員は、ハンドラーに用意はできたか聞く
- 第三者は、ハンドラーに声を掛け、挨拶をした後「犬に触っていいか」を確認する
- ハンドラーは犬が触られると苦手な場所などがあれば、それを伝え、第三者は、ハンドラーからの指示に従い、犬に匂いをかがせるため手の甲を差し出す
- 第三者は犬の頭にゆっくりと手を伸ばし、ゆっくり撫でる。約3～5秒が目安となる
- 第三者はお礼を言い、**ゆっくり**立ち去る
- 判定員が「はい終わりです」と声をかけるまでハンドラーは次の指示を待つ(この間、犬への声かけ・**ほめ・撫でることも認められる**)

失格とは

- ハンドラーが、犬をコントロール出来ておらず、準備が出来ない
- ハンドラーの犬への過剰な接触や、押さえつけるような行為**

- 犬が第三者に触られた後、落ち着くことができない
- 頭を振って相手の手に「頭突き」をするなどの、不適切な行為
- 手を避けようとする大きな動き
- うなり声、吠える、噛み付こうとする
- 過剰に喜び飛びついたりして、ハンドラーのコントロールが効かなくなる

3. リード付きの散歩中の「一般的な刺激」に対する反応（約20メートル、犬が歩く最中に、人が行き交う、また過度ではない刺激を与える）を確認する。
 *会場の広さに応じて、L字・V字・U字・0字でコースを設定する
 また、コース内に「停止箇所」があり、そこで立ち止まる。（犬の姿勢は問わな
 いが興奮したり、飛びついたりしないものとする）

<準備・用意>

犬にとって過度ではない刺激

「刺激」は判定員によって、適宜選択されるが、基本的には下記の3つ

- ① キャリーバッグ等のキャスター付きバッグでの横切り
- ② お菓子袋の「カサカサ」という音と、中からのかすかなニオイ
- ③ 小走りに目の前（後ろ）を横切る人

判定

- 判定員は、ハンドラーに用意はできたか聞く
- ハンドラーは犬に声を掛け、歩きだす
- コース内で、犬の前後を、ゆっくり人+刺激が3種通過する
- ハンドラーは適宜犬に指示を与え、人やニオイや音に集中をそがれないようにコントロールする
- 犬は対象となるものに興味を示しても良いが、ハンドラーの指示で、飼い主に集中を向けることとする
- ハンドラーを過度に引っ張ったり、歩行を嫌がるように、トボトボ歩いたり、止まらないようにする
- 途中、指定された箇所で1度ハンドラーが立ち止まる（犬の姿勢は問わない）
- コースのゴールに到着したら、判定員が「はい終わりです」と声をかけるまでハンドラーは次の指示をその場で待つ

失格とは

- 刺激に対して反応をした後、通常の状態に戻れない
- 飛び回ってしまう、飛びつく
- 対象を追いかける・立ち止まって凝視する
- 制御できなくなる
- 吠える、唸る
- ハンドラーの指示がきけなくなるなど

- 過度に引っ張る／過度に後ろをついて歩く／歩くのを拒む

4. 伏せ、待て10秒

5. お座り、待て20秒

判定

- 判定員は、ハンドラーに用意はできたか聞く
- ハンドラーは犬に声を掛け、犬に伏せ・お座りをさせる
- 犬は伏せ・お座りのまま待つ
- 判定員指定の時間後、「終わりです」と指示する
- 判定員が「はい終わりです」と声をかけるまでハンドラーと犬は動かず次の指示を待つ

失格とは

- 犬が伏せ・お座りできない
- 伏せ・お座りの態勢が崩れる（伏せてしまう・立ってしまう）
- 吠える、唸る
- ハンドラーの指示がきけなくなる
- ハンドラーがしゃがみ続ける

6. ロングリードをつけてのおいで（呼び戻し）

判定

- お座り、待っての号令はかけない
- 犬にロングリードを適切につける
- 自らのリードを外し、犬をジャッジに預け、指示された場所まで離れる（6～7メートル）
- 犬に指示を出し、呼び戻す（犬は速やかにハンドラーに駆け寄る）
- 犬を呼び戻したら通常のリードをすぐにつける
それからロングリードをはずし判定員が終わりの声をかける

失格とは

- 犬が過度に興奮・おびえ、コントロールがきかなくなる
- 吠える、唸る
- 呼び戻せない（ハンドラーの元に戻らない、別の場所に行ったままになる）
- ハンドラーが適切なリードの付け替えが出来ない
- 駆け寄った際に勢いがついて、複数回ハンドラーに飛びつく
- リードの脱着時に、ハンドラー等に複数回飛びつく

7. 他の犬に対するすれ違い反応（リード付き）

<準備> 行動が制御できる犬とハンドラーのペア

判定

- ハンドラーの距離が**およそ2メートルの間隔で他犬とすれ違う
- 犬を外側にして相手とすれ違う
- 挨拶時には声を掛け、**立ち止まらず**挨拶を交わしそのまますれ違う
- 犬は、相手に向かって行ったり、吠えついたり、遊びを誘うことなく、落ち着いてハンドラーのそばを歩いている

失格とは

- 唸る、吠える
- 飛びつこうとする
- 逃げようとする
- 犬が相手や相手の犬に向かっていく
～ハンドラーが進む直線上の前や後ろを横断して相手に向かう状態
- 恐怖反応
- ハンドラーの制御不能（犬がコントロールできない状態）

8. ハンドラーの足もとで伏せて落ち着く（5分間）

<準備> イス 人数分

判定

- 判定員は、ハンドラーにイスを与え、座るように指示をする
- ハンドラーは腰を掛け、犬に足もとで伏せるよう指示をする
- 犬は3回**まで**立ったり、姿勢変えをしても良いが、ハンドラーの足元で落ち着いていなければならない
- 犬の気を引くような道具の使用は認められない（おもちゃ、ガムなど）
- 犬の寝る場所としてのマットなどは使っても良い
- ハンドラーのイスの前後を判定員が2往復する
- ハンドラーは判定員の「終わりです」の合図があるまで座っている

失格とは

- 唸る、吠える
- 飛びつこうとする
- 逃げようとする
- 恐怖反応
- 制御不可
- 伏せることもあるが、落ち着けず、ずっと立ってウロウロしている

9. ハンドラーが四本の足をタオルで拭く・ブラシをかける（性格診断でもある）

判定

- 犬の体の姿勢はどのようであっても可
- ハンドラーは、ゆっくりと四肢をタオルで拭き、ブラッシングする

失格とは

- 唸る、吠える
- 飛びつこうとする
- 逃げようとする
- 恐怖反応
- 制御不可

※本冊子の無断複製を禁じます
※優良家庭犬®は優良家庭犬普及協会の登録商標です



愛犬を社会の一員にするために 一般社団法人 優良家庭犬普及協会

〒193-0813 東京都八王子市四谷町 1917-36 コーポ中平 201

電話:042-626-2226 / FAX:042-626-2227

<http://www.cgcyj.net> info@cgcyj.net